先発品と効能・効果又は用法・用量が異なる製品

日新製薬株式会社

■ファモチジン静注 10mg「日新」・ファモチジン静注 20mg「日新」

一般名:ファモチジン 規格: 10mg/10mL/1 管·20mg/20mL/1 管

下線部:相違点 先発品(ファモチジン 10mg・20mg 注射剤) 自社品 効能 〈相違なし〉 上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出血性胃炎による)、Zollinger-Ellison 症候群、侵襲ストレス 効果 (手術後に集中管理を必要とする大手術、集中治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷) による上部消化管出血の抑制、麻酔前投薬 ○上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出 ○上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出 血性胃炎による)、Zollinger-Ellison 症候群、侵襲ス 血性胃炎による)、Zollinger-Ellison 症候群、侵襲ス トレス(手術後に集中管理を必要とする大手術、集中 トレス(手術後に集中管理を必要とする大手術、集中 治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・ 治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・ 広範囲熱傷) による上部消化管出血の抑制 広範囲熱傷) による上部消化管出血の抑制 通常、成人にはファモチジンとして1回20mgを1日2 通常、成人にはファモチジンとして1回20mgを日局生 回(12時間毎)緩徐に静脈内投与する。又は輸液に混 理食塩液又は日局ブドウ糖注射液にて 20mL に希釈し、 合して点滴静注する。 1日2回(12時間毎)緩徐に静脈内投与する。又は輸 なお、年齢・症状により適宜増減する。 液に混合して点滴静注する。 又は、ファモチジン<u>として1回20mgを1日2回(12</u> 上部消化管出血及び Zollinger-Ellison 症候群では、 時間毎)筋肉内投与する。 一般的に1週間以内に効果の発現をみるが、内服可能 となった後は経口投与に切りかえる。 なお、年齢・症状により適宜増減する。 用法 侵襲ストレス (手術後に集中管理を必要とする大手術、 上部消化管出血及び Zollinger-Ellison 症候群では、 集中治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器 一般的に1週間以内に効果の発現をみるが、内服可能 用 不全・広範囲熱傷)による上部消化管出血の抑制では、 となった後は経口投与に切りかえる。 術後集中管理又は集中治療を必要とする期間(手術侵 侵襲ストレス (手術後に集中管理を必要とする大手術、 襲ストレスは3日間程度、 その他の侵襲ストレスは7 集中治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器 日間程度)の投与とする。 不全・広範囲熱傷)による上部消化管出血の抑制では、 術後集中管理又は集中治療を必要とする期間(手術侵 襲ストレスは3日間程度、 その他の侵襲ストレスは7 日間程度)の投与とする。 ○麻酔前投薬 ○麻酔前投薬 通常、成人にはファモチジンとして1回20mgを麻酔導 通常、成人にはファモチジンとして1回20mgを麻酔導 入1時間前に緩徐に静脈内投与する。 入1時間前に筋肉内投与する。

する。

又は、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液にて 20mL に希釈し、麻酔導入1時間前に緩徐に静脈内投与